

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成26年8月12日
【四半期会計期間】	第70期第1四半期（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）
【会社名】	徳倉建設株式会社
【英訳名】	TOKURA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 徳倉正晴
【本店の所在の場所】	名古屋市中区錦三丁目13番5号
【電話番号】	052 - 961 - 3271
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長 郡司哲夫
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中区錦三丁目13番5号
【電話番号】	052 - 961 - 3271
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長 郡司哲夫
【縦覧に供する場所】	徳倉建設株式会社 東京支店 （東京都港区高輪三丁目19番23号） 徳倉建設株式会社 大阪支店 （大阪市天王寺区国分町16番20号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第1四半期 連結累計期間	第70期 第1四半期 連結累計期間	第69期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	8,191,188	7,917,848	41,867,972
経常利益 (千円)	36,784	193,596	752,102
四半期(当期)純利益 (千円)	16,854	109,859	823,511
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	71,977	145,633	797,392
純資産額 (千円)	5,514,287	6,595,215	6,426,856
総資産額 (千円)	27,551,552	27,514,521	29,762,756
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	0.82	5.33	39.98
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	16.3	20.0	18.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策の効果もあり景気は緩やかな回復基調が続きましたが、海外経済の動向や消費税増税の影響など、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

建設業界におきましても、公共工事が堅調に推移し、企業業績の改善を背景に設備投資等の民間工事も回復基調で推移しました。しかし、慢性的な労働者不足や原材料価格の上昇が懸念され、引き続き厳しい経営環境が続くと思われまます。

こうした状況の中、当社グループはお客様からの信頼を第一に、技術・品質・価格の総合的な競争力の向上に努め、受注と利益の確保に取り組んでまいりました。その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高が7,917百万円（前年同期比3.3%減）となりました。利益につきましては、営業利益282百万円（前年同期比913.9%増）、経常利益193百万円（前年同期比426.3%増）、四半期純利益109百万円（前年同期比551.8%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。なお、当社グループでは、セグメント利益については四半期連結損益計算書の売上総利益を基礎としております。

（建築セグメント）

国内での建築工事に関する事業より構成され、売上高は3,365百万円（前年同四半期比21.7%減）、セグメント利益は233百万円（前年同四半期比11.7%増）となりました。

（土木セグメント）

国内での土木工事に関する事業より構成され、売上高は3,373百万円（前年同四半期比41.6%増）、セグメント利益は395百万円（前年同四半期比224.2%増）となりました。

（海外セグメント）

海外での工事に関する事業より構成され、売上高は832百万円（前年同四半期比20.7%減）、セグメント利益は15百万円（前年同四半期比77.3%減）となりました。

（不動産セグメント）

不動産事業における売上高は97百万円（前年同四半期比1.2%減）、セグメント利益は49百万円（前年同四半期比4.4%増）となりました。

（その他のセグメント）

資機材の販売・賃貸等その他の事業に関する売上高は248百万円（前年同四半期比31.3%減）、セグメント利益は39百万円（前年同四半期比23.9%増）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は1,027千円であります。また当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の状況のセグメントごとの変更内容は次のとおりであります。

（土木セグメント）

袋体を利用した廃杭補強工法

風化が進行している地下廃杭の補強方法の検討、施工方法の研究及び袋材料の選定等の研究を国立大学法人岐阜大学と共同で行っています。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	62,244,000
計	62,244,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	22,072,850	22,072,850	名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000 株であります。
計	22,072,850	22,072,850	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	-	22,072,850	-	2,368,032	-	1,232,784

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式1,253,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式20,709,000	20,709	-
単元未満株式	普通株式110,850	-	-
発行済株式総数	22,072,850	-	-
総株主の議決権	-	20,709	-

(注)1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式813株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 徳倉建設株式会社	名古屋市中区錦三丁目13番5号	1,253,000	-	1,253,000	5.68
計	-	1,253,000	-	1,253,000	5.68

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、栄監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,244,478	5,204,225
受取手形・完成工事未収入金等	2 13,457,334	2 10,062,873
販売用不動産	176,399	175,993
未成工事支出金	696,817	1,523,268
不動産事業支出金	154,696	209,402
商品及び製品	2,722	-
材料貯蔵品	9,748	6,565
繰延税金資産	313,199	311,471
その他	1,097,653	1,154,552
貸倒引当金	388,385	309,327
流動資産合計	20,764,665	18,339,025
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,044,976	4,040,758
減価償却累計額	2,299,780	2,315,104
建物及び構築物(純額)	1,745,195	1,725,653
機械装置及び運搬具	384,807	451,825
減価償却累計額	311,952	318,209
機械装置及び運搬具(純額)	72,855	133,615
船舶	77,926	82,785
減価償却累計額	49,581	55,120
船舶(純額)	28,345	27,664
工具、器具及び備品	189,294	196,118
減価償却累計額	175,903	181,148
工具、器具及び備品(純額)	13,391	14,970
土地	4,615,766	4,622,586
その他	3,960	3,960
減価償却累計額	462	660
その他(純額)	3,498	3,300
有形固定資産合計	6,479,052	6,527,790
無形固定資産		
その他	104,378	99,924
無形固定資産合計	104,378	99,924
投資その他の資産		
投資有価証券	1,689,813	1,754,512
長期貸付金	278,669	261,650
繰延税金資産	107,658	96,956
長期未収入金	343,716	329,892
破産更生債権等	18,421	16,732
その他	172,128	280,863
貸倒引当金	195,748	192,827
投資その他の資産合計	2,414,660	2,547,780
固定資産合計	8,998,091	9,175,495
資産合計	29,762,756	27,514,521

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	10,771,231	9,356,683
短期借入金	6,427,135	5,097,544
1年内償還予定の社債	324,400	324,400
未払法人税等	232,548	92,378
未成工事受入金	1,797,630	2,419,879
完成工事補償引当金	144,070	143,831
工事損失引当金	100,835	131,834
賞与引当金	102,290	46,906
その他	623,702	546,770
流動負債合計	20,523,843	18,160,229
固定負債		
社債	661,600	661,600
長期借入金	1,445,065	1,361,465
長期末払金	48,291	45,563
再評価に係る繰延税金負債	109,385	109,385
環境対策引当金	2,394	2,394
退職給付に係る負債	396,786	433,149
資産除去債務	9,279	9,321
その他	139,255	136,199
固定負債合計	2,812,056	2,759,077
負債合計	23,335,900	20,919,306
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,368,032	2,368,032
資本剰余金	1,527,310	1,527,310
利益剰余金	1,933,627	2,027,916
自己株式	163,800	163,921
株主資本合計	5,665,169	5,759,337
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	212,342	265,959
土地再評価差額金	553,462	553,462
為替換算調整勘定	-	1,004
退職給付に係る調整累計額	45,501	26,900
その他の包括利益累計額合計	295,618	259,598
少数株主持分	1,057,305	1,095,476
純資産合計	6,426,856	6,595,215
負債純資産合計	29,762,756	27,514,521

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	1,819,188	1,791,848
売上原価	7,728,730	7,231,980
売上総利益	462,457	685,868
販売費及び一般管理費	434,624	403,663
営業利益	27,833	282,204
営業外収益		
受取利息及び配当金	16,390	18,993
為替差益	40,300	-
その他	8,470	11,847
営業外収益合計	65,161	30,841
営業外費用		
支払利息	37,182	34,791
為替差損	-	66,343
その他	19,027	18,314
営業外費用合計	56,210	119,449
経常利益	36,784	193,596
特別利益		
固定資産売却益	4,094	430
その他	715	-
特別利益合計	4,809	430
特別損失		
固定資産除売却損	-	76
特別損失合計	-	76
税金等調整前四半期純利益	41,594	193,950
法人税等	32,895	82,597
少数株主損益調整前四半期純利益	8,698	111,352
少数株主利益又は少数株主損失()	8,156	1,493
四半期純利益	16,854	109,859

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,698	111,352
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50,530	53,627
繰延ヘッジ損益	30,144	-
為替換算調整勘定	-	745
退職給付に係る調整額	-	18,600
その他の包括利益合計	80,675	34,281
四半期包括利益	71,977	145,633
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	63,833	144,505
少数株主に係る四半期包括利益	8,143	1,128

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

前連結会計年度において、当社の非連結子会社でありました TOKURA THAILAND CO.,LTD. は、重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更等)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間から退職給付支払ごとの支払見込期間を反映するものに変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取り扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が40,763千円増加し、利益剰余金が26,292千円減少しております。なお、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(税金費用の計算方法の変更)

従来、当社及び連結子会社の税金費用については、原則的な方法により計算しておりましたが、四半期決算業務の一層の効率化を図るため、当第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であるため遡及適用は行っておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

(1) 連結会社以外の会社等の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
従業員	6,002千円 従業員	5,467千円

2 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
受取手形割引高	2,094千円	5,286千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

当社グループの売上高は、主たる事業である建設事業において、契約により工事の完成引渡し第4四半期連結会計期間に集中しているため、第1四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が著しく多くなるといった季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	32,525千円	41,374千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	建築	土木	海外	不動産	計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,298,185	2,382,370	1,049,484	98,662	7,828,704	362,484	8,191,188
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,847	19,870	-	36,775	59,494	114,689	174,183
計	4,301,033	2,402,241	1,049,484	135,438	7,888,198	477,173	8,365,372
セグメント利益	209,260	122,034	69,383	47,115	447,793	31,877	479,670

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、資機材賃貸事業及び資材販売事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
 (差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	447,793
「その他」の区分の利益	31,877
セグメント間取引消去	17,213
四半期連結損益計算書の売上総利益	462,457

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	建築	土木	海外	不動産	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,365,585	3,373,221	832,618	97,498	7,668,924	248,924	7,917,848
セグメント間の内部売上高又は振替高	56,638	132,289	-	22,832	211,759	337,806	549,565
計	3,422,223	3,505,510	832,618	120,330	7,880,683	586,730	8,467,414
セグメント利益	233,651	395,587	15,727	49,194	694,160	39,482	733,643

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、資機材賃貸事業及び資材販売事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
 (差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	694,160
「その他」の区分の利益	39,482
セグメント間取引消去	47,774
四半期連結損益計算書の売上総利益	685,868

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	0.82円	5.33円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	16,854	109,859
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	16,854	109,859
普通株式の期中平均株式数(株)	20,597,553	20,595,176

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月12日

徳倉建設株式会社
取締役会 御中

栄監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 玉 置 浩 一 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 横 井 陽 子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている徳倉建設株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、徳倉建設株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。